

平成21年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目(該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2009-A-28

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：東南海・南海地域および日本海溝・千島海溝周辺の地殻活動モニタリングの高度化

英文：Monitoring of crustal activities around Tonankai-Nankai region and Japan Kuril trenches

4. 研究代表者所属・氏名 地震地殻変動観測センター・金沢敏彦

(地震研究所担当教員名) 金沢敏彦・篠原雅尚

5. 利用者・参加者の詳細(研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日数	旅費支給
金沢 敏彦	東京大学地震研究所	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
篠原 雅尚	東京大学地震研究所	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
塩原 肇	東京大学地震研究所	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
望月 公廣	東京大学地震研究所	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
山田 知朗	東京大学地震研究所	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
中東 和夫	東京大学地震研究所	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
岩崎 貴哉	東京大学地震研究所	陸域構造・観測	2009.4-2010.3	365	無
酒井 慎一	東京大学地震研究所	陸域地震・観測	2009.4-2010.3	365	無
村井 芳夫	北海道大学	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
日野 亮太	東北大学	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
佐藤 利典	千葉大学	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無
植平 賢司	九州大学	海底地震観測・解析	2009.4-2010.3	365	無

6. 研究内容(コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：海底地震計，モニタリング，地殻活動

東南海・南海地域

これまでに得られている長期海底地震計を用いた海底地震データの解析を行い、東南海地震と南海地震の震源域境界付近の地震活動の詳細を明らかにした。平成20年12月に、紀伊半島沖に設置した3台の広帯域海底地震計と6台の長期観測型海底地震計を回収した。回収した広帯域型海底地震計の波形記録を見ると、南海トラフ沿いで発生していると考えられる、低周波成分が顕著に励起された超低周波地震と考えられる地震波形が見られた。また、平成21年11月に、広帯域海底地震計3台と長期観測型海底地震計5台を用いた海底地震観測を紀伊水道沖の海域で開始し、現在継続中である。

日本海溝・千島海溝周辺

これまでに得られている長期海底地震計を用いた海底地震データの解析を行い、千島海溝南部から日本海溝域の詳細な震源分布を明らかにし、それからプレート境界位置の推定を行った。また、房総沖で40台規模の長期型海底地震計を用いた海底地震観測を開始した。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

Spatially varying seismicity distribution in the Tonankai-Nankai regions revealed by repeating long-term ocean bottom observations、日本地球惑星科学連合2009年大会、謝辞の記載：無、ポイント2

長期観測型海底地震計による千島海溝・日本海溝域の震源分布とプレート境界形状、日本地震学会2009年度秋季大会、謝辞の記載：無、ポイント2